

## 第 3 回三次市立小中学校のあり方に基本方針策定委員会 意見概要

## 【地域との関わりについて】

- ・地域との関わりが児童生徒にいい影響を与えているため、つながりや特性を生かしながら統合のあり方や魅力づくりを考える必要があると思う
- ・各地域には文化や取組みがあり誇りをもっているため中心部に集めるといった考えはどうか
- ・地域を交えた多様性のある教育について、早くから話し合う体制づくりや交流が必要
- ・教育を通して自分の住んでいる地域を感じ、地元地域や三次に帰ってくる子ども育てることが大切
- ・地域がクラブ活動の受け皿を整備し、好きなどころで活動できる仕組みを作ればよい
- ・地域から学校をなくさないように地域の人たちが頑張る必要がある
- ・学校をなくしたら、その地域が衰退してしまわないかという心配がある
- ・学校を自由に選択できるのはよいが、地域から子ども流出してしまい、元気がなくなる心配がある
- ・合併や統廃合により今ある機能をどう補完し、誰が存続維持するのかが課題となってくる
- ・自治連ごとでのまちづくりが、ストレートに中学校の教育活動と関わっているわけではない
- ・地域と言っても毎日地域が関わっているわけではない
- ・子どもを地域にしがみつかせるのではなく、地域差・人数差がないような環境をつくる必要がある
- ・自治振興区に縛られたものであってはならないのではない
- ・統合という形で地域が変わっていく必要がある
- ・子どもたちが地域を育てることが大切
- ・中学校区域をもとに自治連合会や支所があることを前提に子どもたちのことを考えるべき
- ・様々な集団と様々な活動ができる機会をつくる必要がある

## 【学校配置について】

- ・地域の衰退を考えると小中学校ともにそれぞれの地域にある程度残す必要がある
- ・統合しても、それぞれの地域での活動の時間を残したうえで1つにすればよい
- ・小規模、大規模それぞれの良さを活かすことが必要
- ・自由で多様な選択肢の提供が必要
- ・将来的に北部 3 地域の学校の統合を考えていく上では、例えば地理的な面や、小中学校の配置環境から考えるなど、色々な側面から検討する必要がある
- ・例えば、校区内で複数の小学校区が分かれているところは、規模の大きな学校を分けることによって適切な規模及び配置とすることも考えられる
- ・もともとなかったもので、「ないものはない」という考え方をする
- ・学校の規模が小さくても、規模がもっと大きければよいとは限らない
- ・学区をまとめようと思うと自治連の範囲を見直す必要があり、1つにまとめるのは難しい
- ・学校がないとその地域に住むことが難しい。魅力はそのあと作っていけばよい
- ・統合するならば地域名を学校にしないほうがよい
- ・通学の時間、距離、経済負担も考える必要がある
- ・子どもの数が減った場合に学校として機能しにくくなることをどれだけ理解を得られるかが課題
- ・中長期的にみて、何人だったら何年間運営が可能なのかを考えていくことが現実的
- ・インフラが整った段階で初めて統廃合の話になる
- ・地域の活性化を考えると統合するメリットもある

- ・小中一貫校は中学校と小学校の交流ができ、よい効果もある
- ・少人数での教育の良さを活かした、小規模特認校制度の導入を検討すればよい

#### 〈小学校〉

- ・地域に子どもの声が無くなるのは寂しいため、小学校の学区変更は難しい
- ・小学校は行動範囲が狭いため、歩いて行ける距離に置くべき
- ・旧郡部に1つの学校が適正な配置ではないか
- ・子どもを一緒に育てる地域づくりをめざす場合は、自治振興区ごとの小学校が理想
- ・地域の人に関わりたくなる学校という視点で考えると今の配置が適正
- ・20～25校が適切ではないか
- ・地域に子どもたちの根っこを残しながら、三次全体の良さとその校区にある良さをミックスして教育していくことがよいと考えるなら、小学校は地域にある方がよい

#### 〈中学校〉

- ・中学校区域の配置はこのままでよい
- ・東西南北で4学区程度にすればよい
- ・7中学区程度にすればよい
- ・通学距離から、統合は難しいところもあるのではないか
- ・友人関係や成長を考えると中学校はある程度統廃合するべき
- ・中学校の期間は地域愛を持ち、地元に戻ってくる人を育てるために大事な時期である
- ・通学について、交通状況を考えて北部地域は三次中学校に集めるほうがよい
- ・自転車での通学距離に中学校は配置するべき
- ・地理的なことも考慮して統合を検討していくことも必要
- ・地域の活性化を考えると一つにするメリットもある
- ・何が強みでそこに中学校があるのかを考えていくと、残したい中学校が出てくるのではないか
- ・中学校の方が、地域との距離感があると意識がある
- ・中学校を選ぶ際にチーム競技ができる部活動の有無で選定している子どももいるため、ある程度の人数が必要
- ・エリアに限らず中学校が減ったとしても三次市内でつながっていくことはできる

#### 【学級規模】

- ・小規模では2クラス以上欲しいと思っているのではないか
- ・少ないなり、多いなりにメリット・デメリットがある
- ・「ないもの」が魅力的に見えたりする
- ・少人数校を出た生徒が、40人/1クラスに入った場合、「怖い」と感じることもある
- ・クラスは縦割りで授業になったら横割りにすればよい
- ・適正なクラス規模は10人くらいではないか
- ・十日市学区の規模では、クラス数は多すぎる
- ・40～50人になると目が届きにくいため、20～30人くらいで2クラスくらいが適正ではないか
- ・極端に人数が少ないクラスだと人間関係が崩れた時に逃げ道がないため、もう少し多いとよい
- ・体育の授業など集団競技ができないことに関しては問題があり、集団で行うことの意義がある

- ・学校，学年同士で交流を行うことで小規模による課題を改善すればよい
- ・できないことが多いことがデメリットとなることもある
- ・地域に学校があることも大事だが，子どもの成長のためにはある程度人数が必要
- ・人数に関係なく魅力化を実現するにはどうすればよいかを聞くことが教育環境づくりではないか

#### 〈小学校〉

- ・規模が小さくなったとしても小学校は残した方がよい
- ・子どもが思いを持って，いろんな人と関わろうとしたときにはある程度的人数が必要
- ・集団が苦手な子どももいるため，集団の中で一人で居られるような人数規模が必要

#### 〈中学校〉

- ・発達段階を考えると，早い段階で知らない人とコミュニケーションができる体験をした方がよいと思う
- ・色々なクラブが作れる規模はあったほうがよいと思う
- ・塩町中学校のように生徒数が185人いる規模では，地域との交流は難しいのではないか
- ・1クラス40数人より30数人のクラスの方がのびのびしているように見えた

#### 【教職員について】

- ・教職員定数は学級数による学校規模で決まるため，小規模校では教職員が少なく，中学校では科目ごとの配置を考えると教職員の負担が大きく，学校運営が難しくなる。このような学校を地域が納得したとしても子どもが納得しないのでは
- ・悩みを担任以外の先生に相談できるよう，人数を増やせられればよい